

十八親和銀行佐世保本店ATMコーナー「白井晟一と親和銀行」展示スペース開設記念

特別企画展

白井晟一と親和銀行へ邂逅する作品たち

十八親和銀行佐世保本店のATMコーナーに建築家・白井晟一と白井設計による親和銀行建築（※1）を紹介する展示スペース「白井晟一と親和銀行」が6月1日に開設されました。これを記念して、十八親和アートギャラリーでは現在、季節展示室と絵画展示室1、ホワイエにおいて特別企画展「白井晟一と親和銀行へ邂逅する作品たち」を開催しております。

本展開催にあたり、白井晟一建築研究所（アトリエNo.5）より、佐世保本店に現在も残る銀行名のレタリングや紋章の原画、「原爆堂計画」（※2）の初期直筆コンセプト文など貴重な資料10点をお借りして展示しています。また関連資料として、当館所蔵の親和銀行大波止支店設計図、白井の義兄で日本画家・近藤浩一路の水墨画、建設当時の親和銀行会長・北村徳太郎の書など10点を併せてご紹介しております。

白井は建築家として名を残す一方で、書籍装丁の仕事や顧之昏元と雅号した書家としても優れた足跡を残しています。本展ではその仕事を紹介する資料として、中央公論社（現・中央公論新社）の《中公文庫》デザイン原画や長崎県滞在中に揮毫した書も展示しています。

奇しくも、白井、近藤、北村は京都にゆかりがあり、一連の親和銀行建築はその縁がもたらしたものと考えることができます。長崎県に建てられた二つの銀行建築が、現在も建設当時の機能や用途を変わらず維持し、芸術的、歴史的な価値を有することをあらためて知っていただくとともに、本展が、当館にコレクションされている三者のつながりや、巡り合わせを再考する機会となれば幸いです。

（※1）「親和銀行建築」1962年から75年にかけて白井晟一の設計により、東京支店、大波止支店、本店が建設された。本店は3期、約10年に渡る大工事を経て完成し、白井の代表作のひとつとして知られる。この内、大波止支店と本店（現・佐世保本店）が現存。
（※2）「原爆堂計画」1954年に南太平洋ビキニ環礁沖で行われたアメリカの水爆実験によって日本のマゴロ漁船が被爆した「第五福竜丸事件」を契機に白井晟一が自発的に発案し、1955年に雑誌「新建築」で発表したが実現には至らず。その意匠の一部が、後に建設された親和銀行本店に継承されている。



中央公論社《中公文庫》
装丁デザイン原画

白井 晟一
1973年 インク／紙
所蔵：白井晟一建築研究所
（アトリエNo.5）

白井 晟一（しらい・せいいち）：
1905～1983。京都市生まれ。京都高等工芸学校（現・京都工芸繊維大学）卒業後に渡独し、ハイデルベルク大学、ベルリン大学で哲学、美術史を学ぶ。近藤浩一路の自邸兼アトリエの設計に携わったことを契機に建築家の道に進み、住宅や公共建築を多数手掛けた。親和銀行本店で建築年鑑賞、日本建築学会賞、毎日新聞芸術賞、日本芸術院賞を受賞した。

開催中

2023年
9/2
(土)

まで



「親和銀行本店完成図」作画：竹中工務店 不透明水彩／紙 所蔵：十八親和アートギャラリー

十八親和アートギャラリー

鑑賞無料

【開館時間】10:00～16:00（入館は15:30まで）

【休館日】日・月・祝日、年末年始（12/30～1/4）

※土曜日が祝日の場合は開館



長崎県佐世保市島瀬町4-24 十八親和銀行島瀬ビル1F TEL.0956-23-4856 西肥バス島瀬町バス停から徒歩3分、JR佐世保駅から徒歩約20分